

平成 31・令和元年度 稲荷教育

京都市立稻荷小学校
校長 大野 利和

平成 31・令和元年度 京都市学校教育の重点

＜京都市の目指す子ども像＞

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」

- ◆京都が育んできた伝統と文化に立脚し、広い視野と豊かな感性をもち、よりよい人生や社会を創造できる
- ◆学校教育をはじめ様々な学びを生かし、社会的・職業的自立を果たすことができる
- ◆多様な他者と共に生き、学び合い、人権文化の担い手となることができる

＜学校教育において重視する視点＞

- ◆子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める。
- ◆カリキュラム・マネジメントの視点のもと、PDCAを意識し、教育課程に基づき、組織的かつ計画的に日々の教育活動の質の向上を図り、子どもの姿や地域の状況に応じた創意あふれる取組を展開する。
 - 1 主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める
 - 2 日々の授業と家庭学習との連動を通して、自学自習の習慣化を図る
 - 3 自他を大切にする態度を育成する
 - 4 「公共の精神」に基づく態度を育成する

＜学校運営の柱＞～全教職員で進める確かな学校教育～

- ①子どもの命を守りきる
- ②すべての教職員がカリキュラム・マネジメントの視点をもって実践を進める
- ③教育者としての職責を自覚し、資質・指導力を高めるとともに、働き方改革を進める
- ④校種間連携・接続を推進する
- ⑤「困り」を抱える子ども一人一人に対する支援を行う
- ⑥保護者・地域と連携・協働した取組を推進する
- ⑦関係機関など社会と連携した総合的・継続的な支援を展開する

本校が目指す教育

I 学校教育目標

いきいき なかよく りそうに向かって 考動する子

II めざす子ども像

い	「いきいき」	○心も体も元気な子
な	「なかよく」	○命ときまりを守りきる子
り	「りそうに向かって」	○目標をもって自ら学び続ける子
	「いなり」	○学校・地域を愛する子
◎「 <u>考動する</u> 」…「 <u>考えて行動する</u> 」(自己指導能力)		

III 学校教育目標の具現化

